

# 古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

## 大問二一（出典：『方丈記』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

築地格助(体修)の格助(体修)つら、道格助(体修)の格助(体修)ほとりに格助(体修)飢ゑ死ぬるもの格助(体修)の格助(体修)たぐひ、数格助(体修)も格助(体修)知らず格助(体修)。取り捨つる格助(体修)わざも格助(体修)知らね格助(体修)は、臭クき香ク、世界タ下二・用タ四・中接助にタ四・用タ四・中接助満ち満ちてラ四・用カ四・体、変ラ四・用カ四・体はりゆくかたちありさま、目タ下二・未可能・未打消・終もタ下二・未可能・未打消・終当てられぬことク多クかりク（※1）。いはんや、河原副助など係助には、馬・車格助(主格)の格助(主格)行き交ふ道副助(副進)だクになしク。

あやしシクきシク賤山シク賤シクも力カ四・用尽カ四・用きて副助シク、薪副助シクさへ副助シク乏副助シクしくなりゆけマ四・体ば、頼クむかたなき人は、自ら格助(体修)が格助(体修)家格助(体修)を格助(体修)毀格助(体修)ちて格助(体修)、市シクに出ダ下二・用ラ四・終でてラ四・終売ラ四・終る。一人格助(主格)が格助(主格)持ダ下二・用完了・体ちてダ下二・用完了・体出ダ下二・用完了・体でたるダ下二・用完了・体価ダ下二・用完了・体、一日格助(主格)が格助(主格)命バ四・未打消・終格助係助にバ四・未打消・終格助係助だバ四・未打消・終格助係助にバ四・未打消・終格助係助及バ四・未打消・終格助係助ばバ四・未打消・終格助係助ずバ四・未打消・終格助係助とぞ。あやしシクきシク事は、薪シクの中シクにシク、赤クき丹クつクき、箔クなど所ヤ下二・体々ヤ下二・体に見接頭ゆる木ラ四・用過去・体格助ナ下二・已接助(偶然)、あひまサ変・終可能・体じはサ変・終可能・体りけるクをク尋クぬれクば、すクべきかたなきもの、古寺クにク至ラ下二・用ハ四・用りてラ下二・用ハ四・用仏ラ変・体クをラ変・体ク盗格助係助マ上・用丁作み、堂格助ラ四・用ラ四・用の格助ラ四・用ラ四・用物ラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終具ラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終をラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終破ラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終り取ラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終りてラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終、割ラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終り碎ラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終けるラ四・用カ四・已完了・体断定・用過去・終なりけり。濁副助悪副助世副助に副助し副助も副助生ラ下二・用ハ四・用れ合ラ下二・用ハ四・用ひてラ下二・用ハ四・用、かラ変・体クかる心ラ変・体ク憂ラ変・体クきラ変・体クわラ変・体クぎラ変・体クをラ変・体クなラ変・体クむ見格助係助マ上・用丁作侍格助係助マ上・用丁作り格助係助マ上・用丁作し格助係助マ上・用丁作。

※1：一般に形容詞の「〜かり」は補助活用の連用形だが、「多し」は「多かり」が終止形としても用いられる。形容詞の特殊例は他に「同じ」が挙げられる（「同じき」「同じかる」「同じ」の三つの連体形を持つ）。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）